令和7年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都の素晴らしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・高等学校を通じた英語力を育成するため、校種間連携を強化し英語教育の更なる充実を図る。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①言語活動について、授業内での割合に改善が見られる。
- ②一定の英語力を有する小学校教員の新規採用者を増やすことができた。

未だ改善が必要な点

- ①言語活動を通じた指導について、目的や場面、状況の設定に十分な工夫が見られない。
- ②ALTの活用やICTの活用に学校間の差が見られる。
- ③小中高連携について、中学校教員の小学校英語教育への感心が一部教員のみにとどまり広がらない傾向が見られる。

2. 要因分析

- ①専科研修や指導助言において、具体的に講義をしたことや「京都市スタンダード」に明記したことで、改善したと考えられる。
- ②採用試験において、英語推進コースとしての採用枠方式を加点方式に変更実施したことで、広く英語力を有する新規教員を採用することができた。

- ①言語活動を通じた指導に学校間の差が見られる。言語活動を通じた指導への理解が十分でない、または児童が主体的になれる目的や場面、状況の設定が工夫できていないと考えられる。
- ②授業内外での活用方法が分からないことが要因と考えられる。
- ③小中高連携について、重要性は認識しているが、多忙感や授業観の転換ができない教員もいることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①専科教員研修の充実
更に教員の授業力・指導力を高めるため、専科教員研修をレベル別に実施することで自分に必要な課題改善を行えるようにする。「京都市スタンダード」と「評価ガイドブック」を紐付け、言語活動や中間指導の具体的な内容を更に分かりやすく示す。
- ②加配教員への研修の充実
採用後加配教員として英語を指導する教員については、京都市で作成した理論研修や授業動画の視聴をはじめとする指導力向上を担保する研修を実施する。また、採用試験において、「英語」の中学もしくは高校の普通免許状を有する者への加点措置を実施する。
- ①言語活動を通じた指導の推進
4つのステップを具体的に示し理解を図るとともに、目的や場面、状況の設定においては、カリキュラムマネジメントや他教科との関連など工夫できるよう、SMART PORTAL(京都市立学校教職員のみが利用できるイントラネット)に全ての教員が活用できる「京都市スタンダード」及び「評価ガイドブック」をあげ、多様な例示をする。
(参考URL : <https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/>)
- ②ALTとICT活用
英語教育推進のための重点ブロックを選定し、ALTとICTの活用に重点的に取り組み、効果を検証する。また、ALTとのTTの示範授業例をSMART PORTALに複数掲載したり、English Cafeの取組事例等を広く示したりすることで、各校で段階的に実践を積み重ね、ALTとICTの活用に向けて着実に取り組めるようにする。
- ③校種間連携の推進
研修は全校種参加可能にし、小中高連携講座では同じ表現のUnitで実践発表を行うなど、興味を持てる内容となるよう改善を図る。
また、校種間でCAN-DOリストを共有することで、学びの接続・連携を図る。

令和7年度 京都市 英語教育改善プラン

目標

京都の素晴らしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・高等学校を通じた英語力を育成するため、校種間連携を強化し英語教育の更なる充実を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：55.6%⇒R7：60%）

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「話すこと」（やりとり）について、物怖じせずにコミュニケーションを図ろうとする姿が見られる。また、R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、原稿を用いず即興で行う言語活動が全国平均と比較多いことが見られる。
- ②「書くこと」について読んだり聞いたりしたことから自分の意見や感想を簡単な語句や表現を使って書く姿が見られる。

未だ改善が必要な点

- ①「小中高連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定を実施している学校」が少なく連携を活かした授業改善が進みにくい。（参考：R5:22.2%）
- ②「生徒が遠隔地の英語が堪能な人と個別に会話を行う活動」の改善が進みにくい。（参考：R5:2.8%）

2. 要因分析

①全校においてALTと自由に話す企画を継続的に実施したことで、コミュニケーションを図る態度が改善したと考えられる。

②全校において帯時間に必ず「書くこと」を取り入れたことで、「書くこと」のfluencyが改善したと考えられる。

①コロナ禍で停滞した連携を回復出来ず、長期休業における研修会でのみ交流していることが要因と考えられる。

②学校が独自で展開することが難しく、また費用と時差が障害となること、ICT機器やWi-Fi環境が十分でないこと、マネジメントが負担となること等が要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①習得した知識及び技能を目的や場面・状況に応じて実際に使う機会の創出・物怖じせずコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、年間を通して、ALTと自由に話す企画を継続すること、学校外においても習得した英語を使う機会を与えるために夏期休業中にALTと野外活動等をするバスツアーや、ALTとのオンライン交流会の実施、また秋には外部団体と連携して課題解決型のフィールドワークを行う。
- ②「聞くこと」の力を高めるために朝学習の時間等を活用し「Morning English Shower」のような取組を普及させて行く。また今年度も年2回TOEFL Primaryの希望制受験を実施する。

①校種間連携の推進

中学校ブロック単位で英語教育重点ブロックを指定し、小・中間の円滑な接続を実現する。重点ブロックにはALTを1名配置し、ブロック内の各校で同じALTが授業に参画するとともに、授業内外で児童生徒がALTと会話する機会を増やす。また、アプリで「話すこと」「聞くこと」の力を強化し、ALTとの会話につなげるよう活用する。こうした取組を、各ブロック内で小・中が連携して継続的に企画・実施し、「読むこと」「書くこと」も含めたコミュニケーション能力を、児童生徒の発達段階や各学校段階を踏まえて総合的に育成する。

また、校種間でCAN-DOリストを共有することで、学びの接続・連携を図る。

②ICT機器を活用した遠隔地との交流の推進

自分の英語が通用したという達成感を味わわせるため、外部委託も活用しながら、地域人材、他校のALTの活用も視野に入れ、英語を使わなければならない環境を設定し、学習してきた内容が生きて働く場面を創出する。

例：Hello World(株)のWorld Classroomや(株)ECOMのオンライン授業
 (参考URL：<https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/>)

令和7年度 京都市 英語教育改善プラン

京都の素晴らしさや自らの考えを世界に発信できるグローバル化時代に対応する実践的英語力の育成、また小・中・高等学校を通じた英語力を育成するため、校種間連携を強化し英語教育の更なる充実を図る。

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 85.5%、B1以上 26.8% ⇒R7 : A2以上 86.0%、B1以上 30.0%以上)

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①学習指導要領の目標達成を実現するための授業改善の推進
(生徒の言語活動 : R5 78.4%→R6 78.7%)
- ②生徒の発信力を高めるパフォーマンステストの検討・実施。高い水準を維持している。
(Listening A2以上 : R6 70.7%
Speaking A2以上 : R6 94.0%
Writing A2以上 : R6 73.0%
(GTEC 高2生全体))

未だ改善が必要な点

- ①パフォーマンステスト「話すこと」「書くこと」の効果的な実施と言語活動をさらに充実させるための授業における英語使用促進。
(R5 54.9% R6 70.2% ←目標値(100%))
- ②「やり取り」を通して即興性を育成する言語活動の充実
- ③ALTの授業での活用
- ④小中高連携の更なる推進

2. 要因分析

①②評価検討委員会で各校の取組や英語教育実施状況調査結果の共有を図り、各校の取組の充実や授業改善につながったと考えられる。

①②生徒の発信力はGTEC（高2生）の結果から高い割合を維持しており、引き続き効果的なパフォーマンステストの実施と実践的な英語力育成のための授業改善を行う。「やり取り」を通して即興性や発信力を育成することは授業内での言語活動だけではなく、パフォーマンステストにおいてもさらに促進していく必要がある。

③授業外だけにとどまらず、授業内でのALTと生徒とのやりとりの場面にさらに増やしていく必要がある。

④年間2回実施の高校教科指導講座には小中の教員にも参加いただき、高等学校の取組を知る、また高校の教員が小中の教員と直接情報共有する機会となったが、参加してもらう必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②令和7年度も評価検討委員会を実施する。令和6年度は各校で実施しているパフォーマンステストと生徒の成果物を持ち寄り、パフォーマンステストの質の向上のために議論を進めた。今年度も委員会内での共有を進めるとともに、教師の発話による生徒の英語力の向上につながる事例を含め、全市立高校にも随時情報を共有する。また市高英語研究会においても、授業改善・指導力向上に向けて情報共有を行い、情報発信を行なっていく。

また、「実践的英語力測定調査事業」として各校でGTEC（4技能）を実施し、その結果をもとにして分析会を実施する。分析会において、各校の授業実践を客観的に振り返り、指導改善につなげる。

<R7 生徒の英語力の目標>

- ・CEFR A2 達成率86%
- ・CEFR B1 達成率30%

②言語活動が中心となった授業をより一層充実していくため、実践的な指導法を学ぶ研修を実施していく。

③各校の授業見学や、ALTとのコミュニケーションを丁寧に図り、状況把握を通して改善へとつなげる。

④小学校英語指導講座、外国語小中高合同講座、中学校英語科教員指導力向上講座、高等学校英語教科指導講座等の、小中高合同実施の教科指導講座を実施し、更なる連携を進める。（いずれも全校種で参加可能）
また、校種間でCAN-DOリストを共有することで、学びの接続・連携を図る。

(参考URL : <https://skc-cms.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku/>)

京都市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	85	80.5	85	85.5	86		87		88		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	27.2	30以上	26.8	30以上		30以上		30以上		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	94	78.4	80	78.7	81		82		83		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	56.9	75	55.3	76		77		78		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	91.7	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	94	93.6	94	92.6	95		96		97			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	54.9	100	70.2	100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60以上	55.3	60以上	55.6	60以上		60以上		60以上		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	70.2	75		76		77		78		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	83.7	85		86		87		88		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	94.4	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	90.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	54.1	55	55.1	56		57		58		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	63.7	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	60	57	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	84.8	100		100		100		100